

大杉、大田口、豊永保育所の現状に関する調査

平成 29 年 1 月 30 日
教育民生常任委員長 藤丸 高德

大杉保育所は、昭和56年度に建設された施設である。保育所への進入道路は狭小で、急勾配であり、園児の送迎の際には、駐車場もなく、冬季は路面が凍結するなど環境は決して良いとは言えない。このことから大杉保育所保護者会から保育所の移転を求める要望書が提出されている。

週明けの月曜日には、園児の布団等も持参しなくてはならず、布団を片手に園児と手をつないで急勾配を登園していた。また調査当日は、雨も降っていたため、保護者たちは大変苦慮していた。

以上の現況下、大杉保育所は、施設の耐震化や通園路の環境に加えて、保小中一環教育のうえからも保育所の移転等整備が喫緊の課題となっている。安全で安心して子育てができる環境を充実するためにも早急な対策を望む。

また、大田口保育所は、昭和48年度に建設され、その後、屋根の葺き替え工事等行っているが、建設から40年余り経過しており、利用する園児数も減少傾向で、老朽化も著しい施設である。今後においては保育運営を含め、注視していく必要がある。

社会福祉協議会が運営している豊永保育所は、昭和55年度に建設され、耐震化やトイレ等の設備が整備されておらず、今後の保育運営に支障を来すことが予想される。園児数も増える見込みでもあり、今後の対応については、環境整備等要検討である。



通園中の園児、保護者

1万8千ヘクタールある人工林が伐期を迎えている状況など、1次産業として守ってきた農業林業を活かすということは、非常に大切だと思っ

▽重森一宗議員

地方創生で、大豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に、地域資源を活用し安定した雇用を創出し、林業で雇用を創るとあるが、山林現場での雇用についての現状と、今後の取り組みについて聞く。

▽岩崎憲郎町長

山林の現場で動きを起こすことが目的であり、雇用につながることを期待している。現在は、自伐的な林業を、10人弱の方が、林業会社等で雇用される方が50人か60人という状況だと思っ



西峰での森林施業

ては、1万8千ヘクタールを超える人工林について、従来は所有する方が植林をし、手入れをして、伐採するというのが現状であるが、現在の状況は、林業として成り立たすためには、さまざまな条件をクリアして大団地化を進め共同して施業団地を作ることが必要である。山元での動きを作るために素材の生産について嶺北地域、いの町も含めて協議会を立ち上げ、行政だけでなく森林組合、民間の事業者の方も加わり、今後取り組みを進めていく。

Q10

問 町有林整備推進基金の目的は
答 資源として育てる

▽重森一宗議員

山林・伐採後の跡地について寄付をしたいとの話もあり、今議会に大豊町有林整備推進基金条例を提案しているが、改めて、その目的・運用・金額について聞く。

▽岩崎憲郎町長

山元に動きを届け、安定供給をすることが所得向上につながる。そういう視点で山の資源の安定的な確保を考えた場合に、山に対する地主の方々のさまざまな考え方があり、中には山を寄付したいという方もいる。実際に、申し出もあり、そうした山について一定、公有林化を進め安定的な林業経営を支える資源を育てていく取り組みを進めるため、今回、予算に5千万円の基金の設置を提案している。

▽重森一宗議員

都会で生活をしている子どもが山林の登記をしない。結果、不在地主が増えて山林の整備等が不可能になる。国はこの対策について検討を始め、町長はその委員になっていくのか。

▽岩崎憲郎町長

国においても、所有者不明の土地の問題が大きな課題となり、その対策会議を作り、増田寛也氏が座長で、私もその一員になっている。その対策についてワーキンググループを作り、今検討をしているところであり、6月に中間発表がある。本町の場合には所有者不明土地の問題もあるが、持ち主はいるけれども積極的に山の管理をしない

いこと自体が大きな問題だと捉えている。会議では、登記が50年100年されてない土地に対してどうするかを審議がしていくと思う。登記そのものを法律によって義務化するというようなこともまた視野に入れた検討と聞いているが、その検討の内容は今後にかかっている



町有林の間伐

Q11

問 人事交流は行うのか
答 実施をする

▽重森一宗議員

田坂副町長の任期は6月末であるが、今後において国から本町へ、また本町から国・県への人事交流は予定されているのか。

▽岩崎憲郎町長

国の機関との間で

一定期間の人事交流を予定している。この取り組みを通じて職員の意欲・能力アップなどさまざまな面での効果は大きなものがあると思う。住民の期待に応え得る組織づくりのためにも、人事交流を4月から実施する。

編集後記

3月は保育所の卒園式、小学校の卒業式、企業などの人事異動、転勤と別離の悲しみと、新生活が始まる季節でありますが、今年の桜は、例年よりかなり遅れて咲きそうです。

広報編集特別委員会は、3月議会において組織替えがあり、新しいメンバーとなりました。議会広報誌は、議員を選出した主権者住民に対する議会の報告書であり、住民のための情報誌として、できるだけ分かりやすく編集してまいりたいと考えております。任期初めての編集ですが、よろしく願います。



- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 西村 正尚 |
| 副委員長 | 小笠原 妙子 |
| 委員 | 藤丸 高德 |
| 委員 | 三谷 幸一郎 |
| 委員 | 佐藤 徳治 |

〔ご意見やご感想は〕
大豊町議会事務局
☎72-0468
(直通)